



浦野 泰照 (URANO Yasuteru)

東京大学大学院薬学系研究科 教授、
同医学系研究科 教授 (兼任)

東京大学薬学部卒業、
同大学院博士課程修了。
博士 (薬学)。

1990 年東京大学卒業、1997 年東京大学大学院薬学系研究科助手、2005 年同研究科准教授、2010 年東京大学大学院医学系研究科教授 (生体情報学分野、現兼務)、2014 年東京大学大学院薬学系研究科教授 (薬品代謝化学教室、現職)。その間、日本学術振興会特別研究員 (DC1、PD)、及び科学技術振興機構さきがけ「構造機能と計測分析」領域研究員を兼任。

専門は、ケミカルバイオロジー。蛍光プローブやケージド化合物、光増感プローブなどの新規光機能性分子を開発し、全く新たなイメージング技術や医療技術を、基礎生物学研究から実臨床までの幅広い分野に提供することを目標に研究を進めている。

主な研究成果として、光誘起電子移動 (2003 年)・分子内 spiro 環化 (2007 年) に基づく新規蛍光プローブの論理的設計の実現、がん治療抗体のがん細胞への取り込みを可視化する蛍光プローブの開発による微小がんイメージング (2009 年)、がん細胞で亢進している酵素活性を鋭敏に検出する蛍光プローブの開発と、その適用による術中がん迅速可視化の実現 (2011 年)、自発的に明滅を繰り返す超解像イメージングプローブの開発 (2014 年) など。

日本薬学会奨励賞受賞 (2004 年)、文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞 (2006 年)、Invitrogen-Nature Biotechnology Award 受賞 (2006 年)、日本学術振興会賞受賞 (2012 年)、読売テクノ・フォーラム ゴールド・メダル賞受賞 (2012 年)。